

2012年度PMからのメッセージ

氏名・所属: 増井 俊之 (慶應義塾大学 環境情報学部 教授)

略歴:

1984年 東京大学大学院工学系研究科電子工学専門課程
修士課程修了
同年4月 富士通(株)
1986年4月 シャープ(株)
1996年1月 (株)ソニーコンピュータサイエンス研究所
2003年4月 (独)産業技術総合研究所
2006年10月 米国Apple Inc.
2009年4月 慶應義塾大学 現在に至る

工学博士

情報検索、テキスト入力、情報視覚化、実世界指向インタフェース
などユーザインタフェース関連の研究に従事
予測型テキスト入力システム「POBox」開発者
本棚.org, QuickML, Gyazo FeedTVなど各種Webサービス運用中

専門分野:

ユーザインタフェースのソフトウェア/ハードウェア全般。
特に情報検索、情報視覚化、例示/予測インタフェース、テキスト入力、実世界インタフェースシステムなど。

メッセージ:

あらゆる人々がパソコンや携帯電話を利用するようになり、世界中の計算機がインターネットで接続される時代になりました。この結果、世界中の人間や情報が計算機とネットワークを介してリアルタイムに通信可能になっています。誰もが世界の裏側の情報をリアルタイムに利用したり国家指導者とダイレクトにメッセージ交換したりできるようになったことは人類の歴史において空前絶後の出来事だといえますが、インパクトの大きさに人間の考え方がまだ追いついていないように感じられます。

現在のほとんどの社会システムは計算機技術による革命的变化より前に作られたものであり、人間社会にとって最適なものといえなくなってきました。切符を買わなくても電車に乗れるようになったり、封筒を投函しなくてもメッセージを送れるようになったり、計算機技術によって徐々に社会は変化しつつありますがまだまだ充分ではありません。

従来のやり方に慣れた旧人類にとって現状と異なるシステムを考えることは難しいでしょうし、新しいシステムを受け入れることに抵抗を示すかもしれません。計算機技術とともに生まれ育った若者にとっては現在の技術レベルと社会システムの乖離がはなはだしいと感じられているのではないのでしょうか。新しい計算機技術の活用によって人間生活や社会を大きく変える可能性を感じるような斬新な提案を歓迎します。

審査基準:

既存技術の改良のような提案(e.g.「～の高速化」)よりも、これまでできなかったことを可能にする提案・意外性のある提案を重視します。社会を根本的に変えようという大それた提案でもかまいませんし、これまで計算機が使われていなかった場所や状況における新しい応用でもかまいません。アイデアの新規性、有用性、エレガントさ、多くの人間を幸福にすることができるか、を審査基準とします。